

2011年度 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点 研究プロジェクト 研究計画書

2011年 月 日提出

1. 研究プロジェクト名		洛中洛外図屏風の総合的アーカイブと都市風俗の変遷
2. 研究プロジェクト代表者		川嶋将生、松本郁代
3. 研究班 メインとなる研究班 その他		京都文化研究班
		日本文化研究班
		歴史地理情報研究班
		デジタルアーカイブ技術研究班
		Web活用技術研究班
4. 研究期間		2011年 4月 ~ 2012年 3月
5. 研究メンバー		
種別	氏名	所属・職名
事業推進担当者	川嶋将生	立命館大学衣笠総合研究機構・特別招聘教員(教授)
	松本郁代	横浜市立大学大学院・准教授、立命館大学衣笠総合研究機構・特別招聘准教授
特別招聘教員		
研究員		
客員研究員	出光佐千子	出光美術館・学芸員
	張建立	中国社会科学院日本研究所 社会文化研究室・准教授
PD	彬子女王	立命館大学衣笠総合研究機構・PD
RA		
学内研究協力者		
その他		

6. 2011年度教育研究計画（今年度の教育研究内容、目的と結果の予想の関係が理解できるようにご記入ください。特に若手研究者（研究メンバーのPD、博士課程後期課程大学院生）の役割、教育効果を具体的にご説明ください）。

* 研究会の開催

年間延べ4日間の「風俗画研究会」を8月と12月に開催する。

本研究会には、本学に所属するPD、RAはもちろんのこと、他大学所属の院生や、日本各地の美術館・博物館などに所属する若手研究者が集まり、活発な議論が展開される。本研究会で報告された発表の多くは、今年度末までに刊行予定の論集に掲載されるため、教育効果とともに研究業績となることが期待される。

なお編者は松本郁代・出光佐千子（客員研究員）・彬子女王（本拠点PD）の予定。

* シンポジウムの開催

冬にシンポジウム「文化財の過去・現在・未来」の第二弾を開催する予定。本シンポでは、サブタイトルに「デジタルとアナログの共存を目指して」とあるように、人文学の研究を進めていくうえでの基本的な視点が議論される。

したがって本シンポに参加することにより、とりわけ若手研究者には大いなる研究的刺激が得られよう。

7. 教育研究計画・方法		
教育研究目的を達成するための計画・方法、実施する場所をできるだけ具体的に記入してください		
実施時期	計画内容	実施場所
8月	「風俗画研究会」の開催	ARC
12月	「風俗画研究会」の開催	ARC
12月	シンポ「文化財の過去・現在・未来」第二弾の開催	創思館
3月	ARC所蔵「京洛月次風俗図巻」の刊行（松本郁代・川嶋将生共編著。思文閣出版）	
3月	論集『風俗絵画の文化学』第二弾の刊行予定（思文閣出版）	